



令和4年度 保護者・生徒・地域の皆さんへ  
**長野高等学校 学校長だより**  
(「学校長だより」はホームページにも掲載しています。)

令和4年  
No 1  
4月15日(金)

## 入学式は、在校生の多くの協力で挙行されています。

4月6日(水)に入学式が行われ、291名(全日制281名、定時制12名)の新入生が入学しました。この入学式は教職員だけでなく、生徒の皆さんの協力によって実施されています。具体的には式場等で**吹奏楽・管弦楽・合唱班**が演奏してくれただけでなく、ステージ上や校舎内に**華道班**の作品展示、ステージづくり(片付け)やシート引き(片付け)には**籠球・女子バスケット・排球・女子バレー・羽球・剣道・合唱班**等の班活動の生徒さんが手伝ってくれました。さらに**放送部**(放送設備)、**新聞部**(速報金鶏)の生活向上部など、数多くの人々の手を借りて新入生を迎えています。ご協力して頂きました皆さんに感謝いたします。



写真  
(上) シンデレラ階段での管弦楽班演奏  
(左) 吹奏楽班・管弦楽班の会場での演奏  
(中) 合唱班の校歌披露  
(右) 華道班のステージ上の作品

## クラブ活動等に参加して、複数の居場所をつくることをお勧めします。

上記の理由を説明します。国立青少年教育振興機構「子供の生活力に関する実態調査」報告書(2015年)の中で、子供の生活力(コミュニケーション、礼儀・マナー、課題解決等のスキル)と、保護者の方々の子どもへの接し方にどのような相関があるか分析しています。子どもに**勉強以外の様々な体験を積極的にさせたり自主性を尊重している親御さんの子供たちは、生活スキルが非常に高い傾向**が見られました。一方、叱咤激励(「もっと頑張りなさい」とか、場合によっては「保護者の意見が優先される」)する接し方では、特定のスキルが低い傾向が見られた、とあります。

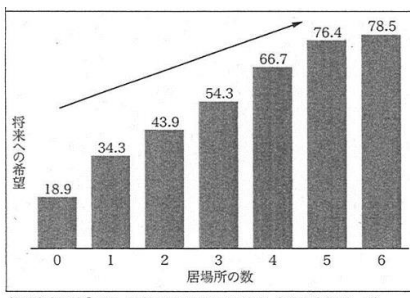
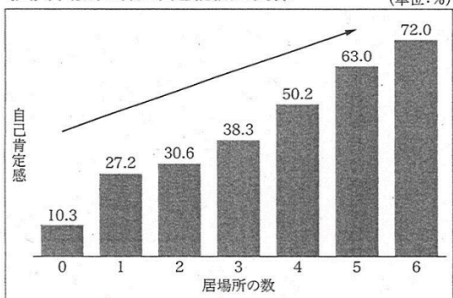
内閣府「子供・若者白書」(2019年)では、諸外国の若者の自己肯定感「自己評価」であるのに対して、日本の若者の自己肯定感「他者評価」であることが特徴だ、と述べています。つまり、日本の若者は、自身が所属する社会や組織、周囲の人々の役に立っているかどうか? どう評価されているのか? が自己肯定感に大きな比重を占めている、という事です。この特徴の是非(私個人としては『他者をそんなに気にする必要ないのに』と思いますが……)はともかく、**自己肯定感を向上させるには、所属する集団で自分の役割を果たしていく事**です。そのためにはいくつかの集団で、自身の役割を果たしていける環境をつくった方がよい、ということです。

内閣府「子供・若者白書」(2021年)では、**居場所や相談できる人が多いほど、前向きな気持ちになっている**ことが示されています。居場所の数と自己認識の関係を整理したグラフ(下記に抜粋のグラフを記載)では、自室・家庭・学校・地域・職場・ネット空間など居場所の数が多いほど、「自己肯定感」「チャレンジ精神」「将来の希望」等が高まり、おおむね相関していることが報告されています。また、同様に、相談できる人がいる場の多さや困った時に助けてくれる人がいる場の多さと自己認識の前向き

さも、おおむね相関しているとしています。

以上から、新入生に限らず、クラブ活動※1や校外活動等（「ユースリーチ」やボランティア活動等々）など、何らかの集団・活動団体に所属することをお勧めする次第です。

〈図〉居場所の数と自己認識の関係



(出典)内閣府「子供・若者の意識に関する調査」(19年度のデータ)

※1 「班」・「同好会」の他に、生活向上部の「放送部」「新聞部」があるため、「班活動」や「部活動」という表現では、一部を示す言葉となるため校長（宮本）は校内では「クラブ活動」と表現しています。

## 本校の部活動指導方針です。

様式1 学校部活動方針様式



### 令和4年度長野県長野高等学校 部活動方針

令和4年4月

|         |  |
|---------|--|
| 目標      | 運動部ならびに文化部の活動は、本校生徒会と共に、生徒による自主活動の一翼を担うものであり、その活動を通して生徒自身の運動技能の向上または文化的素養の発展を目的とし、校訓である「質実剛健」「和衷協同」「至誠一貫」の実現を目指す。  |
| 運営方針    | <p>部活動を生徒の多様な学びの場の一つとして積極的に活用し、教育的意義のある運営を行う。</p> <p>①休養日の設定<br/>原則として、週当たり2日以上の休養日を設ける。<br/>平日は少なくとも1日、土曜日及び日曜日（以下週末という）は少なくとも1日以上を休養日とする。ただし、週末に大会参加等で活動した場合は、休養日を他の日に振り返るなど、柔軟に対応する（1～3ヶ月以内の対応が望ましいが、最低でも年間の中で対応する）。</p> <p>②活動時間<br/>1日の活動時間※1は、平日及び学校の休業日（学期中の週末を含む）とともに、長くとも3時間程度とし、平日は、原則19時までの活動とする。ただし、大会や練習試合等で、基準とする1日の活動時間を上回る場合には、他の日の活動時間を調整するなど工夫する。<br/>※1「活動時間」とは、運動部・文化部ともに県の方針で示されている通り</p> <p>③長期休業中の休養日・活動時間<br/>原則として、上記の①・②に準じた扱いを行う。</p> <p>④各班の運営における留意点<br/>1人の顧問だけで運営を行うのではなく、複数の顧問で情報を共有しながら連携して行う。<br/>目標に明記のある「生徒による自主活動」の趣旨に則り、生徒の主体性を育む場であることを念頭に行う。</p> |
| 指導体制の工夫 | <ul style="list-style-type: none"> <li>外部の人材、外部講師の活用</li> <li>各種団体や社会体育等との連携</li> </ul>  |
| その他     | <ul style="list-style-type: none"> <li>各班の年間予定と活動時間について</li> </ul> <p>上記運営方針の①～④に基づいて、各班の顧問は計画し、適宜情報を関係者へ提供する。</p>   |

昨年度、一昨年度と同様です。各クラブの活動は大会前には当然練習量が多くなりますし、また屋外でのスポーツは季節的に活動量の増減があります。従って、例えば休養日などは、できる限り、ある程度の期間の中で原則通りになるように計画していますが、大会前等の時期では、原則どおりにはいかないこともご承知ください。

特に新入生の皆さんは、高校のクラブ活動の練習強度に接するのも初めてですし、運動部では、春はインターハイ予選のために練習量や質が求められる時期です。高校のクラブ活動に慣れるのも大変ですが、1年間の中でも最もハードな時期から参加するので戸惑うことが多いと思います。しかし、この状況がずっと続くわけではありませんので、各クラブで作成した計画を生徒の皆さんと保護者の皆さんともども共有して頂きますようお願いいたします。

（この『学校長だより』は生徒には「紙」で、保護者の方には「メール添付」で配布しています。）